

令和 8 (2026) 年度

学校推薦型選抜 (人間健康科学部 看護学科) 試験問題

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で5ページ、解答用紙は全部で2枚あります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

第1問 次の文章を読んで、設問1～2に答えなさい。

見えないことと目をつぶること

見えない体に変身したいなどと言うと、何を不謹慎な、と叱られるかもしれません。もちろん見えない人の苦勞や苦しみを軽んじるつもりはありません。

でも見える人と見えない人が、お互いにきちんと好奇の目を向け合うことは、自分の盲目さを発見することにもつながります。美学的な関心から視覚障害者について研究するとは、まさにそのような「好奇の目」を向けることです。そうした視点は障害者福祉のあり方にも一石を投じるものであると信じています。

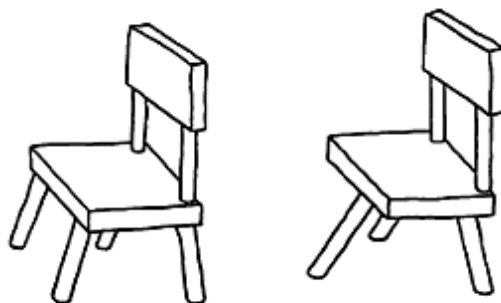
ではいったい、どのようにして「見えない体」に変身すればよいのか。そんなの簡単だよ、視覚を遮ればいい、目をつぶったりアイマスクをつければいいじゃないか、と思われるかもしれません。

いいえ、視覚を遮れば見えない人の体を体験できる、というのは大きな誤解です。それは単なる引き算ではありません。見えないことと目をつぶることとは全く違うのです。

見える人が目をつぶることと、そもそも見えないことはどう違うのか。見える人が目をつぶるのは、単なる視覚情報の遮断です。つまり引き算。そこで感じられるのは欠如です。しかし私がとらえたいのは、「見えている状態を基準として、そこから視覚情報を引いた状態」ではありません。視覚抜きで成立している体そのものに変身したいのです。そのような条件が生み出す体の特徴、見えてくる世界のあり方、その意味を実感したいのです。

それはいわば、四本脚の椅子と三本脚の椅子の違いのようなものです。もともと脚が四本ある椅子から一本取ってしまったら、その椅子は傾いてしまいます。壊れた、不完全な椅子です。でも、そもそも三本の脚で立っている椅子もある。脚の配置を変えれば、三本でも立てるのです。

脚の配置によって生まれる、四本のバランスと三本のバランス。見えない人は、耳の働かせ方、足腰の能力、はたまた言葉の定義などが、見える人とはちょっとずつ違います。ちょっとずつ使い方を变えることで、視覚なしでも立てるバランスを見つけているのです。



四本脚と三本脚ではバランスの取り方が違う

変身するとは、そうした視覚抜きのバランスで世界を感じてみるということです。脚が一本ないと

いう「欠如」ではなく、三本が作る「全体」を感じるということです。

異なるバランスで感じると、世界は全く違って見えてきます。つまり、同じ世界でも見え方、すなわち「意味」が違ってくるのです。

(中略)

「うちのうち、よそはよそ」という距離感

意味に関して、見える人と見えない人のあいだに差異はあっても優劣はありません。見えないからこそその意味の生まれ方があるし、ときには見えないという不自由さを逆手にとるような痛快な意味に出会うこともあります。そして、その意味は、見える／見えないに関係なく、言葉でシェアすることができます。そこに生まれるのは、対等で、かつ差異を面白いがる関係です。

木下さん^{注)}が対談の途中で叫んだ言葉が忘れられません。そのとき、私は見える人にとって想像力とは何かを説明していました。想像力とは、いま・ここにはないものや場所について頭の中で視覚的に思い浮かべることである、それは一種のイメージだけど、実際に見ているものとは違う、というような話をしていたのです。

その話が、これまで木下さんが不可解だと思っていたことのひとつを理解するヒントになったようでした。そして木下さんは叫びました。「なるほど、そっちの見える世界の話も面白いねえ！」。

障害についての凝り固まった考え方を、これほどまでにほぐしてくれる言葉があるのでしょうか。痛快なのは、木下さんが見える人の世界のことを、「そっちの世界」と言っていることです。「おたく最近調子どう?」「うん、ぼちぼちかな。そっちは?」。まるでそんな感じの、軽いノリの「そっち」でした。

福祉的な態度では、「見えない人はどうやったら見える人と同じように生活していくことができるか」ということに関心が向かいがちです。つまり、見える人の世界の中に見えない人が生きている。もちろん、現実にはさまざまな社会的インフラは見える人の体に合わせて作られていますから、それはそれで大切です。しかし、木下さんの言う「そっち」は、見える世界と見えない世界を隣り合う二つの家のようにとらえています。「うちのうち、よそはよそ」という、突き放すような気持ちよさがそこにはあります。

手を差し伸べるのではなく、「うちのうち、よそはよそ」の距離感があるからこそ、「面白いねえ！」という感想も生まれてきます。先に私は「好奇の目を向けること」が大切なのではないかと書きました。差異を尊重する、などと言うと妙に倫理的な響きがありますが、もう一步踏み込んで、ちょっと不道徳な「好奇の目」くらいのほうが、この「面白いねえ！」には必要なのではないかと思います（もちろんお互いの同意のもとで）。意味ベースの関わりとは、見えない人を「友達」や「近所の人」として接することです。

あるいはそれは、異なる文化に属する人と関わる経験に似ているかもしれません。異国にいと、自分にとって当たり前だったことが、他人の目から見るといかに異常な習慣かに驚かされることしばしばあります。それが異国に行く「面白さ」です。その土地の文化についてネットやガイドブック

の「情報」として知っているのと、実際に現地に行ってその「意味」を体験するのは全く違います。

「そっちの見える世界の話も面白いねえ！」と叫んだとき、木下さんは、見える人の想像力のあり方について、その意味を納得することができた、つまり「変身」することができたのでしょう。もちろんそれは部分的な変身でしかないかもしれませんが。しかしながら、差異を尊重してアンタッチャブルになるよりは、まずは「変身」して身をもって感じたほうが、かえって差異を「面白がる」ことができるのではないのでしょうか。

注) さまざまなワークショップ等で活躍している全盲の方

出典：伊藤亜紗「目の見えない人は世界をどう見ているのか」光文社新書、2015年、29-42頁 一部改変

設問1 下線部の視覚を遮れば見えない人の体を体験できる、というのは大きな誤解とはどういうことか、本文を要約し150字以内で述べなさい。

設問2 筆者の主張を踏まえて、障害がない人が、障害がある人に「変身」して障害を身をもって感じるためにはどのようにすればよいか、あなたが考える具体的な方法を400字以内で述べなさい。

第2問 次の英文を読んで、設問1～2に日本語で答えなさい。

Four health status indicators reflect core aspects of both the quality and quantity of life. Life expectancy is a key indicator for the overall health of a population; avoidable mortality focuses on premature deaths that could have been prevented or treated. Diabetes prevalence shows morbidity for a major chronic condition; self-rated health offers a more holistic measure of mental and physical health. Self-rated health means how healthy a person thinks they are. Table 1 shows the values of each indicator for selected OECD ^(注1) countries with notable characteristics.

出典：OECE「Health at a Glance 2023」 < https://www.oecd.org/en/publications/health-at-a-glance-2023_7a7afb35-en/full-report.html > (2025年7月25日) 一部改変

「life expectancy」 平均寿命 「avoidable」 避けることができた
「mortality」 死亡率 「premature」 早すぎる、早まった 「diabetes」 糖尿病
「prevalence」 有病率 「chronic」 慢性的な 「holistic」 総合的な

(注1) OECDはOrganization for Economic Cooperation and Development(経済協力開発機構)の略称であり、ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め38ヶ国の先進国が加盟している国際機関である。

設問1-1 以下の3つのHealth status indicatorがどのような意味をもつ指標なのか本文の内容から述べなさい。

life expectancy、avoidable mortality、diabetes prevalence

設問1-2 日本以外の国の3つのHealth status indicatorの傾向について、表(Table 1)から読み取れることを項目ごとに簡潔に述べなさい。

設問2 日本のself-rated healthの傾向について、設問1-1、設問1-2の3つのHealth status indicatorと関連付けて、この状況がなぜ生じているか、この状況をあなたはどうか考えるか根拠と合わせて600字以内で述べなさい。なお、self-rated healthやその他のHealth status indicatorについては、日本語に訳して述べても差し支えありません。

Table 1 Health status across the OECD, 2021 (or nearest year)

	Life expectancy		Avoidable mortality		Diabetes prevalence		Self-rated health	
	Years of life at birth	+	Deaths per 100 000 population	+	(%)	+	Population in poor health (%)	+
OECD	80.3	+	237	+	7.0	-	7.9	+
Australia	83.3	+	144	+	6.4	+	3.7	+
Canada	81.6	+	171	+	7.7	+	2.8	=
Chile	81.0	+	247	-	10.8	-	6.8	-
Colombia	76.8	+	328	-	8.3	+	1.3	No Data
Hungary	74.3	+	404	+	7.0	-	8.2	+
Iceland	83.2	+	142	+	5.5	-	5.9	+
Israel	82.6	+	141	+	8.5	-	10.9	+
Italy	82.7	+	146	+	6.4	-	8.1	+
Japan	84.5	+	134	+	6.6	+	13.6	+
Korea	83.6	+	142	+	6.8	+	13.8	+
Latvia	73.1	=	531	-	5.9	+	13.1	+
Lithuania	74.2	+	481	+	5.8	+	13.1	+
Luxembourg	82.7	+	147	+	5.9	-	5.9	+
Mexico	75.4	+	665	-	16.9	-	No Data	No Data
New Zealand	82.3	+	179	+	6.2	+	2.1	+
Portugal	81.5	+	180	+	9.1	+	13.3	+
Slovak Republic	74.6	+	321	+	5.8	-	13.2	+
Switzerland	83.9	+	133	+	4.6	+	3.9	-
Turkey	78.6	+	233	+	14.5	-	8.4	+
United States	76.4	-	336	-	10.7	-	3.1	=

Note: The symbol + indicates an improvement over time, - a deterioration over time, = no change.

出典：OECD「Health at a Glance 2023」<https://www.oecd.org/en/publications/health-at-a-glance-2023_7a7afb35-en/full-report.html> (2025年7月25日)

一部改変